

「この頃、忘れっぼい。ある時の記憶がはじりしない。こなるじ、嘘々とはすへへへへ」
「認知症では？」と尋ねるのだらうか？

71歳のK子さん。半年前から、時々、急に頭の中が真っ白になるようになった。そして、ハッと我に返るといいう。が、その間、何をしてたのか記憶がない。そういえば、普段でも、もの忘れが多い。で、「私、認知症」と嘆くのである。

だが、K子さんの普段のものを忘れは、ときたまものを置き忘れたり、ひとの名前がすらすら出ていかなかったりするといつ程度のものである。しかも、その進行はないようだ。ま、K子さんのように、「自分から」「訴えたい」。認知症ではないか？と訴える人は、ただの加齢に伴っ忘れっぼいこと過ぎないことが多い。

なら、脳に異常はないのかといいつと、大ありだとう。頭のMRI（磁気共鳴画像）の検査も、脳波の検査もまだしていない。だが、K子さんの訴える「頭が真っ白になる」

に、数分くらいの間だけ、発作的に起きた脳の異常による。認知症にみられる記憶障害は、そんな一時的な症状ではない。いつの間にか始まり、少しずつ悪くなっていく。だから、K子さんの「発作」は、一過性（症状の出る病気であって、なかでも、まず「てんかん」の疑いを持つべきなのである。

てんかんと言いつと、子供の頃に発症して、意識を失^なくして倒れたり、全身のけいれんを起したりする病気と思うかもしれない。だが、高齢者のてんかんは、違う。けいれんなどを伴わず、意識が障害されて記憶がなくなるような発作がみられることが多いのだ。

発作時には、口をもぐもぐ動かしたり、無意味な手の動きを繰り返したりするものもある。で、診断には、家族の情報が大切なのだ。が、さて、どうなるといふらうか？

（石黒修三||いしへろくじ||ニック・脳神

経外科医：1031北國新聞掲載）